



あっという間に…

4月に副校長として着任し、あっという間に1学期が終わろうとしています。岩戸には3年前まで8年間勤務していました。3年ぶりの岩戸支援学校は懐かしくもありますが、給食の開始や教育課程の変更など新しくなったことも多く、新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。

3年前、新型コロナウイルス感染症の影響であわただしく臨時休業になり、生徒達にお別れの挨拶もできずに岩戸を去りました。未知のウイルスへの不安を抱え、学校で「何ができるのか」「どうやったらできるのか」を模索した3年間でした。そして、コロナが5類に引き下げられ、新しい節目を迎えた年に再び岩戸に戻ってくることにになり、なんだか不思議な気持ちです。

5類への引き下げと同時に学校生活での感染症対策も大きく変わり、長く続いたマスクの着用も個人の判断となりました。夏を迎えて気温も上がり、運動時以外にもマスクをはずす機会が増えて生徒たちの笑顔が間近に見られるようになり、静かだった学校が少しずつ以前の活気を取り戻しているようです。そんな中で感じることは、「マスクをしなければならない」と「マスクをすることを選ぶ」の違いです。「マスクをしなければならない」と思うと窮屈ですが、「しなくても良いけど、マスクをしておこう」と考えられると、同じようにマスクをしていても気分はずいぶん違います。学校生活の中では、まだ「マスクをすることを選ぶ」場面が多いですが、感染症について知り、感染対策を身につけたうえで選択です。むやみに恐れるのではなく、対応方法を知って選択をすることができるようになったのだと感じています。

同じように、知らないこと、経験したことのないことは誰でも怖くて不安です。でも、思い切って挑戦してみたり、対応方法がわかったりすると、抱いていた不安が小さくなることもあります。まずはやってみること、基本の力をつけ、対応方法を学び、その上で選択する力を生徒のみなさんには身につけてほしいと願っています。

何の心配もなく大きな声でおしゃべりしたり、笑ったり、歌ったりできる生活に早く戻ってきてほしいです。それにはもう少し時間が必要かもしれませんが、社会に出る前の大切な3年間、充実した思い出に残る楽しい学校生活が送れるよう、保護者、地域の方々と力を合わせ、教職員一同、取り組んでまいります。どうぞ、よろしく願いいたします。